

春のアゲハは小さい?

春は、冬をさなぎで越して春に羽化したアゲハが見られます。
 そして、モンシロチョウやアゲハには、生まれた季節によって
 春型と(1)型があり、(1)型は春型にくらべて大きな体をしています。
 (1)は気温が高く、幼虫が十分に成長できるためです。



花を咲かせる草

春に花を咲かせる草たちは、前の年の秋に芽生えたり、球根などで冬をこしたりして春を待っています。下の草花の名を語群から選んで答えなさい。
 また、※印のついた草花は、もともと日本にいた植物ではなく、船の荷などにくっついて外国から入ってきた植物たちです。繁殖力(子孫を残す力)が強い
 ため、今では日本のいたるところで見られるようになっていました。こうした植物は(2...?植物)といいます。

オオイヌノフグリ・ナズナ・ハルジオオン・ホトケノザ・ハコベ・スミレ・エノコログサ・
 セイヨウタンポポ・シロツメクサ・レンゲソウ・スズメノテッポウ・カラスノエンドウ

少し暖かい日が続くと下の草花たちが花を咲かせ始めます。セイヨウタンポポは、光が当たると花を開く性質をもっています。

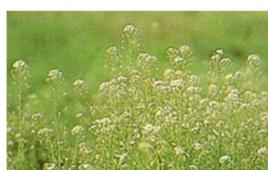
(3※)



(4※)



(5)



(6※)



さらに暖かくなると、下の草花たちも花を咲かせます。

(7)



(8※)



(9※)



(10)



(11)



(12)



ドクダミ

(14)



また、ドクダミやススキなどが、地下の(13...根かくきで)から新しい芽を出しています。(14...ネコジャラシの正式名)のような種で冬をこした植物も春に芽生え、夏や秋になってから花を咲かせます。

重要 下の草花たちを**春の七草**とといいます。…必ず覚えること。



農作物や海産物などは、数が多く取れて
栄養価が高く、味も良い時期を(22…漢字1字)
とといいます。

農作物	ウド・ソラマメ・イチゴ・タケノコ・アスパラガスなど
海産物	サヨリ・タイ・アサリ・ハマグリ・ワカメなど

花壇や畑の草花

ヒヤシンス・スイセン・アブラナ・エンドウ・
クロッカス・ダイコン

(23…語群から)や(24…語群から)の花壇の植物は、まだあたり
が寒いころから花を咲かせ始め、チューリップや(25…語群
から)は、暖かくなってから花を咲かせ始めます。

また、チューリップは気温を感じる能力があります。
これらの植物は、前の年の秋に植えた(26…漢字で)が芽生
えて冬をこしたもので、冬の寒さにあたらないと花が
咲かない性質をもっています。

畑では、(27…菜の花のこと。語群から)が黄色い花を咲かせ、
(28…語群から)の花も見られます。また、種をとるための(29…
語群から)の白い花も咲いています。

そして、夏や秋に花を咲かせるアサガオ・ヘチマ・ヒマワリ

・コスモスなどは、4月の終わりから5月の初めにかけて種をまきます。

ヘチマは25℃くらいの気温で芽生えます。

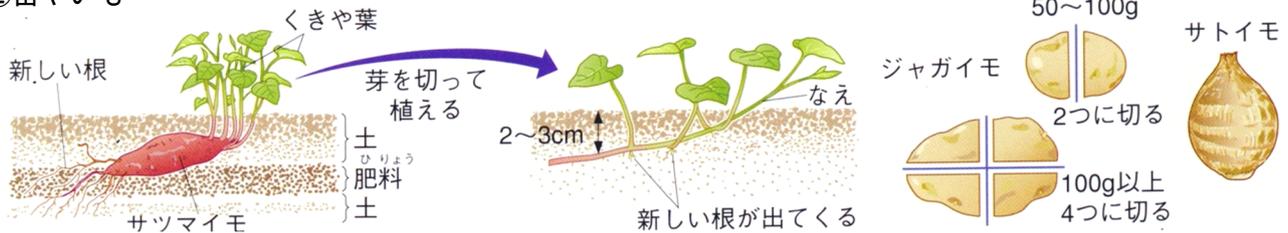


畑の作物

①種まき

ナス・トマト・キュウリ・(30…ビールのつまみになる。大豆の別名)などの夏野菜も春に種をまいて育てます。

②苗やいも



サツマイモは、なえどこに植えたたねいもから出た芽を切って畑に植えます。ジャガイモの大きなたねいもは切ってから畑に植えます。サトイモはそのまま植えます。

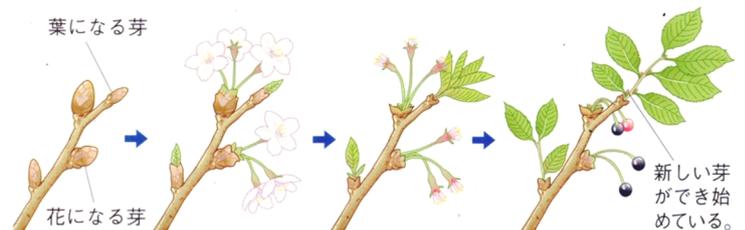
木の芽生えと花

桜(ソメイヨシノ)の冬芽は何枚もの鱗片でおおわれていて、ふくらみの大きいのが(31…葉か花で)の芽、細長いのが(32…葉か花で)の芽です。

ソメイヨシノは一つの芽からいくつかの花の蕾が出て咲き、花が咲いた後に葉がのびてきます。

しかし、山桜や八重桜などは、花と一緒に葉も出てきます。

花びらが散ると、花びらがあつたところの根元がふくらんで実が成長して6月ごろに熟します。



気温が10℃ぐらいよりも高くなると、桜の花が咲き始めます。

このとき、咲き始める同じ地方を、線で結んだものを開花前線といい、とくにソメイヨシノの場合を(33…?前線)とよんでいます。

また、桜は同じ地方でも低い土地から高い土地へと咲いていきます。

このことから、桜の咲く時期は(34…漢字で)に関係していることが分かります。

しかし、地球の温暖化の影響で(33)も変わってくると思われます。

いろいろな木の花

春は庭の木々も次々と花を咲かせます。木の名を語群から選んで答えなさい。

(35)



(36)



(37)



(38)



(39)



(40)



(41)



語群

ウメ レンギョウ モクレン コブシ
ツバキ フジ ツツジ

イチヨウの木は、葉の芽が伸びるころに目立たない小さな花を咲かせています。

また、オスとメスがあり、オスの木は雄花、メスの木は

雌花をそれぞれつけています。クヌギやコナラなどのどんぐりの木は、同じ木に雄花と雌花をつけて、葉がのびる前に目立たない花を咲かせます。イロハカエデも小さな花を咲かせています。



イチヨウの冬芽



花(お花)と葉



クヌギ



コナラ



イロハカエデ

春に見られる成虫

ミツバチ・ナナホシテントウムシ・ハナアブ・キチョウ



ミツバチ



足に花粉だんごをつけて運ぶミツバチ



ハナアブ



キチョウ

巣の中や石の下、雑木林の中などで、成虫のまま冬をこしたミツバチやハナアブなどのすがたが見られます。

春に見られる幼虫

カマキリ・トノサマバッタ・コオロギ・オビカレハ



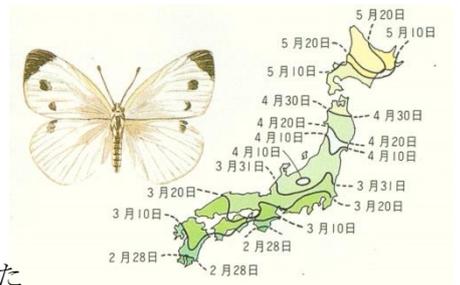
たまごで冬をこしたバッタやオビカレハなどは、春になるとふ化し、春の間は幼虫のすがたで成長していきます。左はエンマコオロギの卵と幼虫で、右が(42…こん虫の名前)のふ化のようすです。

カブトムシ・ギンヤンマ

(43…たまごか幼虫か成虫で)で冬をこしたカブトムシやギンヤンマなどが活動を始めます。

モンシロチョウが初めて見られる日

その年のモンシロチョウの成虫が見られる日は、地方によってちがひ、桜前線のように南から北へと移っていきます。



モンシロチョウのさなぎが羽化して成虫になる時期は、気温が10℃くらいになるころです。そして、モンシロチョウの成虫が初めて見られた

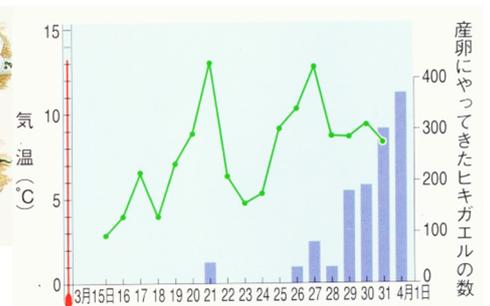
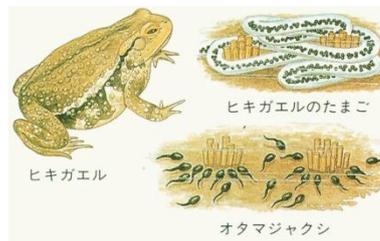
日をモンシロチョウの(44…?日)といいます。この日は北海道と東京で2ヶ月近くのずれがあります。

また、アゲハの成虫が見られるのはモンシロチョウよりもおそく、4月になってからです。

いろいろな動物

ヒキガエル

冬眠から覚めた関東地方のヒキガエルが、自分の生まれ育った池にもどって産卵をはじめるのは(45…グラフから読み取る)月の初めごろで、モンシロチョウの成虫が



見られるのと同じ時期です。気温の変化を感じて産卵を始めるようです。

春の早い時期は、気温がいったん上がったあと下がり、ふたたび上がってきます。このふたたび気温が上がる頃に産卵を始めるのです。産卵を終えたヒキガエルはもとの場所にもどり、5月ごろまでふたたび冬眠します。

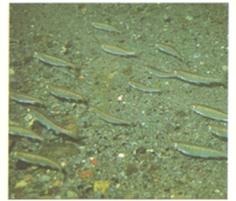
メダカ

冬をこしたメダカは、水温が20℃以上で、昼の長さが(46)時間をこえる頃に産卵を始めます。産卵を終えてふたたび冬眠していたヒキガエルが目を見ますころです。メダカはふ化から2~3ヶ月もたつと、すっかり成長してたまごを産むようになります。



サケ

秋に川の上流でふ化したサケの稚魚は、川を下って海に向かうため、春の終わりごろの河口はサケの稚魚でいっぱいになります。やがて、北の海で育ったサケが数年後にふたたび自分が産まれた川にもどってきます。このとき、サケは広い海の中から自分が産まれた川の(47)をかぎ分けてもどってくるといわれています。



ふ化して、川を下り、海に向かうサケの稚魚

わたり鳥

春になると、南の国からやってきたツバメやカッコウたちが日本で産卵してひなを育てます。

カッコウ



ホトトギス



(図27) マガン



(図28) マガモ



このように、産卵のために日本に渡ってきて夏をすごす鳥たちを(48…?鳥)、ハクチョウやガン・カモたちのように日本で冬をこす鳥たちは(49…?鳥)とよんでいます。かれらは、春早くに北の国へと渡っていきます。

右は、カッコウのひなを自分の子と思って育てているオオヨシキリという鳥です。このようにほかの鳥の巣に卵を産みつけ、その鳥に子育てをさせることを(50…ひらがな可)といいます。



山と平地の間を行き来する鳥

冬の間、山から平地に下りていた(51…鳥名)や(52…鳥名)たちは、新緑にそまるところに山にもどり、産卵してひなを育てます。

このように、秋になると山地から低地へ移ったり北から南へと国内を移動したりする鳥たちを漂鳥といい、スズメやキジバトのように、1年を通してほぼ同じ地域で過ごす鳥たちを留鳥といいます。

(51)



(52)

